

## 現行ビジョンの施策の方向と検証（観光関連）

# 現行ビジョンの検証結果の総括（商工観光）①

## ■現行ビジョンの検証結果の総括

### 1. 現状できていて維持発展させる事項

- (1)工業 - ①-3 人材確保・育成の支援 - ア)企業の人材採用の支援
- (2)商業・サービス業 - ①個店の魅力の向上 - ア)市内商店のテーマ型情報発信・PR
- (3)観光 - ①体験型観光の推進 - イ)体験型観光プログラムの充実
  - ④集客拠点の設定 - イ)生駒山の観光のPR強化
- (4)横断的分野 - ②創業支援 - ア)創業相談窓口・体制強化
  - ウ)テレワーク&インキュベーションセンターの効果的な運営

### 2. 現状できていない事項で実施すべき事項

- (1)工業 - ①-1 操業・イノベーション環境の向上 - ア)伴走支援の充実
    - ①-3 人材確保・育成の支援 - ウ)企業人材の育成
    - ②企業誘致の推進 - イ)企業立地優遇制度の充実
  - (2)商業 - ①個店の魅力の向上 - イ)既存商業・サービス業のイノベーション支援
    - ウ)誘導エリアへの商業・サービス業の誘致
  - (3)観光 - ②観光ネットワークの形成 - ア)近隣地からの観光客の誘致
  - (4)横断的分野 - ①商工観光の情報受発信の強化 - エ)アンテナショップ「おちやせん」の活用
    - ②創業支援 - イ)働きたい女性に「多様な働き方」を提供するまちづくり
- 重点テーマ - ①企業情報の収集・整理・発信を強化する
- ②企業の積極的な事業展開を応援する
  - ③しごとの選択肢を広げる

# 現行ビジョンの検証結果の総括（商工観光）②

## 3. 新たに必要となる事項

- (1)地域経済循環向上（生産・分配・支出の各規模の拡大、循環の強化）
- (2)キャリア支援（企業人材の育成）、ハローワークとの連携、副業促進、
- (3)本市にとって必要な誘致企業の対象業種の見直し、誘致エリアの緩和
- (4)まちなかで働ける機会の創出（住宅エリアでの職住一致・職住近接の促進）

## 4. 実施不要となる事項

- (3)観光 - ③観光推進体制の強化 - イ)観光協会のあり方の検討

## ■新たに対応する事項

### 1. 今後起こりえる課題

- ①国際紛争やパンデミック等の発生に伴う資源エネルギー食糧の高騰や東南海地震などの自然災害の発生リスク
- ②少子高齢化や人口減少に伴うマーケットの縮小と構造変化（消費者人口）
- ③少子高齢化や人口減少に伴う人材不足、後継者不足・事業承継（就労人口）
- ④価値観や働き方の多様化への対応
- ⑤A Iやロボット化による事務・販売従事者（職種）、卸売・小売業（業種）の労働需要の減少
- ⑥新型コロナウイルス対策融資返済問題

### 2. 今後起こりえる機会

- ①学研高山地区第二工区での産業用地の創出
- ②デジタル化の進展
- ③昼間人口の増加
- ④大阪・関西万博
- ⑤新型コロナウイルス感染収束
- ⑥SDGsの推進

# 現行ビジョンの検証（観光）

## ■現行ビジョンで掲げた施策の方向

### ①体験型観光の推進

- ・ 歴史・文化・自然など地域資源の価値を、市外あるいは海外など、第三者の視点で客観的に再評価し、改めて市民と共有し、活用方法やPRを協働で進める。特に、地域の歴史文化や自然資源、産業拠点等を活用した体験型観光メニューの充実に向け、関係者との連携を図る。

### ②観光ネットワークの形成

- ・ 奈良市やけいはんな学研都市を始めとする近隣地域との連携により、地域住民など身近な観光客の誘導や学術研究、お茶などテーマ型観光の魅力の向上を図る。

### ③観光推進体制の強化

- ・ 海外を含め市外に対する情報発信を強化するとともに、インバウンドを含む来訪者を受け入れる体制及び観光振興に主体的に取り組む組織の整備を推進する。

### ④集客拠点の設定

- ・ 宝山寺参道や生駒山など集客拠点となる地域・エリアを設定し、観光振興のモデルとして、情報発信や地域の魅力向上に向けた取組を集中的に支援する。

## ■現行ビジョンで掲げた事業の実施状況

### ①体験型観光の推進

- ・ 商工会議所主催で、着地型観光ツアーを造成したほか、平成30年度からインバウンドに向けた取組として外国人向け体験コンテンツを造成。コロナ禍における令和2年度からは、国内客を含めターゲットとした体験コンテンツを新たに造成し、生駒市観光協会のオンライン体験予約サイトで販売、着地型観光商品の造成・モニターツアーやファミトリップを実施した開催。

### ②観光ネットワークの形成

- ・ 東大阪市と生駒山のブランド化に係る協議会を設立。同協議会及び近畿日本鉄道と連携してイベントを開催し、東大阪市民等を誘客したが、奈良市やけいはんな学研都市に特化したの誘客致は実施できていない。
- ・ テーマ型観光の推進については、ワーケーションやe-bikeを活用した生駒山のブランド化の取組み、東大阪市との協創によるマップづくりや生駒山での市民やインフルエンサー向け茶釜製作やお茶体験のモニターツアーなどを実施したが、サイエンスをテーマとした観光については実施できていない。

### ③観光推進体制の強化

- ・ 体験型観光を紹介するWebサイト「いこま遊び体験」やパンフレットのリニューアル、ハイキング道の道標等を整備。
- ・ 「観光協会の在り方検討」は検討を進める段階には至っていない。

### ④集客拠点の設定

- ・ 宝山寺参道の集客については、近畿日本鉄道との連携によるケーブルイベントや、大和郡山市と連携したバスツアー、奈良先端科学技術大学院大学の留学生等を案内する人権施策課主催によるハイキングイベントなどを実施した。
- ・ 生駒山の観光PR強化については、上記協議会により生駒山を舞台とした観光パンフレットの作成や旅行商品の造成等を実施した。近畿日本鉄道とは、「生駒レトロ」プロモーション等の取組を実施。また、阪南大学との連携で、ゼミ生による観光振興策の提案も受けた。

# 現行ビジョンの検証（横断的分野）

## 横断的分野

### ■現行ビジョンで掲げた施策の方向

#### ①商工観光の情報受発信の強化

- 各支援機関が連携し、創業に関する窓口の一本化や効果的な情報発信など、創業を希望する人に分かりやすく、事業の発展段階に応じた支援体制を構築・強化する。また、女性がライフスタイルや価値観、意欲に応じて、サロネーゼを含む新たな働き方や自己実現の選択肢の幅を広げる機会づくりに努める。

#### ②創業支援

- 各支援機関が連携し、創業に関する窓口の一本化や効果的な情報発信など、創業を希望する人に分かりやすく、事業の発展段階に応じた支援体制を構築・強化する。また、女性がライフスタイルや価値観、意欲に応じて、サロネーゼを含む新たな働き方や自己実現の選択肢の幅を広げる機会づくりに努める。

#### ③産業教育の推進

- 伝統産業や製造業、商業などの現場や大学等と連携し、就業体験を通じた生駒の子どもたちのキャリア教育や将来の産業の担い手育成を推進する。

#### ④農業との連携

- 農・商業者がそれぞれの有する経営資源を互いに持ち寄って連携推進を図る。

## ■ 現行ビジョンで掲げた事業の実施状況

### ① 商工観光の情報受発信の強化

- ブランド化については、平成28～令和元年度まで22のチャレンジ商品を「おちやせん」で販売したほか、帝塚山大学、生駒商工会議所、生駒市観光協会と連携し、お土産コンテストを開催。入賞作を紹介するカタログ「いこまの逸品」作成によりPRした。
- 国・県など支援機関との連携については、ハローワーク、ジェトロ奈良、信用保証協会、よろず支援拠点との連携はできたが、その他の機関との連携はできていない。
- 「おちやせん」の活用については、日常的な市内商品の販売や催事での出店などを実施しているが、商品開発や販売促進、ベルステージの運用も含め、日常営業以外の積極的な取組みが実施できていない。

### ② 創業支援

- 創業支援情報の一元化・連携体制については、実施できていないが、令和2年度以降はメールによる情報配信を実施。
- 平成29～令和元年度に女性向け創業支援事業（サロネーゼカフェ等）を実施。令和2年度以降は、既存の創業支援事業を再構築し、いこま経営塾、ILBHIにおいて学習・交流機会づくり及び伴走支援を実施した。
- 女性の多様な働き方への支援について、「イコマド」を活用した支援により、自宅を店舗や教室にする起業者や、マルシェを主宰するグループ等を輩出したが、現在では取組を実施していない。
- 「イコマド」の運用については、令和3年度にニーズや運営課題等の把握を行い、令和4年度以降の新たな指定管理者の選定にあたり、従来のテレワーク主体から創業・コワーキング支援を主体に運営コンセプトを見直し新たな事業者を選定した。

### ③ 産業教育の推進

- カリキュラムの一環として、小学3・4年生で高竹林園でのお抹茶体験や工場見学を実施、また奈良先端科学技術大と連携協定を締結し、中学校での出前講座を実施している。（教育総務課）

### ④ 農業との連携

- 当初予定の取組は実施できていないが、令和2年度から農林課において、飲食店と農家が連携した「いこまレストラン」を実施している。